

## あ と が き

あの震災から一日経った後、義理の両親の状況を確認めに、車を走らせた。対向車も少なく、ただ静まりかえった家々と崩れた御影石の塀をよけながら、口数少なく、心のせくままに車を走らせた。日差しがやけにまぶしく、頭上のヘリコプタの音が、頭の中に入って来るようで、真夏の午後のように神経をけだるくさせた。

ふと前を見ると、大きさ、直径 10cm 程度であろうか、ポツカリとシャボン玉が、横切った。「あっ、シャボン玉！」と思わず口にし、それを右側へ流しながら、通り過ぎていった。助手席の女房に、振り返って問うたが、気付かなかったようである。まだ電気が通っていなくて、テレビを観れない退屈しのぎに、どこかの子供が、シャボン玉を飛ばしたのだろうか。水の配給や、ガソリンの獲得に列を並び、大人達は、目を吊り上げている。かたや、青空に向けて、シャボン玉を吹いている子供の姿を想像した。なにげない生活が、ここにある。「大丈夫、何とかなる」、と独り言が出た。

一休宗純が死ぬ間際、「この先どうしようもならない事に陥ってしまったと思ったら、これを開けなさい。」と手紙を弟子に渡した。弟子がいよいよ困った時に、手紙を開けてみると、ただこう書いてあったという。

「大丈夫。心配するな、何とかなる」

2011 年 6 月号編集 中村詔司



日本原子力学会核データ部会  
核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助（元放医研）、井頭政之（東工大）、石川 眞（原子力機構）、  
岩本 修（原子力機構）、中川庸雄（元原子力機構）、吉田 正（東京都市大学）、  
渡辺幸信（九大）、山野直樹（福井大）、河野俊彦（LANL）、大塚直彦（IAEA）  
中村詔司（委員長、原子力機構） [編集] 石橋貞子